



プロジェクトニュース

シエラレオネ 地域開発能力向上 (CDCD) プロジェクト

「誰かが欠けても機能する」号

2013年1月29日 (Vol.31)

目次

はじめに -たくましさ-

1. 着任に際して -最貧国なのが不思議な国-

2. 現場活動の実況中継

2.1 「県議会は誰かが欠けても、、、」

2.2 行政官を支えるサポートスタッフの活躍

3. プロジェクト進捗報告

3.1 村落開発モデル構築：モデルワードプロジェクト

3.2 県開発モデル構築：フィーダー道路改修プロジェクト

4. 大好評のコラム：ごつつあんです、シエラレオネ！

第27話：アリラン 共同取材

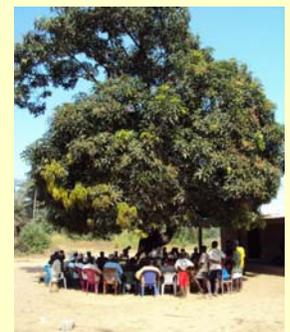
第28話：手作りの釜と手作りのピザ



シエラレオネ



プロジェクト対象県



*プロジェクトHPにもアクセスください：<http://www.jica.go.jp/project/sierraleone/0901171/index.html>

はじめに ーたくましさー

2013年最初の CDCD プロジェクトニュースを専門家一同よりお届けします。遅ればせながら本年もよろしくお願いたします。シエラレオネの正月を静かに迎えました。暖かい場所で迎える正月は実感がなかなかわかないものです。

昨年 11 月の選挙後、カウンターパート機関である地方自治地域開発省の新しい大臣が大統領から指名されました。国会での承認を経て、今年 1 月に大臣が登庁し、地方自治地域開発省も活気が出てきました。

プロジェクトダイレクターである同省副大臣は留任し、県議会の議長も再選し、プロジェクトの主要なカウンターパートの顔ぶれは大きく変わらずに、コロマ大統領政権 2 期目を迎えることになりました。

大統領のスローガンは 1 期目が「Agenda for Change」。そして 2 期目は「Agenda for Prosperity」です。変化から繁栄のための工程に変わりました。

他方、首都や地方でシエラレオネの人々の生活を垣間見る度に、そのたくましさを学びます。例えば、売り場がなければ、売り場を見つけて自分たちで作ってしまう。駐車していた車が瞬く間に、陳列棚に様変わり。生活するために、一人ひとりが一生懸命です。

そのたくましさに敬意を表しつつ、1 日 1 日を大切にシエラレオネの繁栄に向け、プロジェクトの使命を省みてカウンターパートとプロジェクト目標達成に向けて取り組んでいく。それは、近い将来プロジェクトがなくなっても、円滑に地方開発が運営されるように着々と準備を進めることなのだと思います。

(平林リーダー)

1. 着任の挨拶 ー最貧国なのが不思議な国ー

シエラレオネに来て 1 カ月が経ちました。事前にガイドブックを読むこともなく、何の先入観も持たずにシエラレオネにやって来ましたが、最初感じたのは「東南アジアに似ている」ということでした。ウィキペディアで調べたところ、プロジェクト事務所があるポートロコは北緯 8 度 46 分に位置しているようです。ベトナムのホーチミン市が北緯 10 度 45 分であることを考え合わせると、気候が東南アジア諸国と似ているのかもしれませんが。



車がバッグの山に突っ込んだわけではありません。バッグの売り場です。



靴売り場もあります。

しかし赤い大地を見ると、やはりシエラレオネは東南アジアではなくアフリカだと実感します。特に今の季節はハマターンと呼ばれる乾季の北からの季節風が運ぶサハラ砂塵がシエラレオネにもやって来ます。日本で春先、中国大陸から黄砂がくるような感じです。朝、車の上には赤い砂が積もっていますし、窓の隙間から砂が入ってくるので持ち物全てが砂まみれになります。特に困るのがソーラーパネルに積もる砂で、砂のせいで発電力が落ちてしまいます。

その電気についてですが、ポートロコにはまだ電気がきておらず、電気が必要な場合は個人で発電機を設置する必要があります。プロジェクトでも事務所と住居に発電機を備えていて、プロジェクト事務所では執務時間中、住居では夜7時から10時まで発電機を動かしています。住居では発電機停止中にはソーラー電気を使っていますし、発電機動作中には蓄電を行い、発電機を停止した後、夜間でソーラーも使えない時は蓄電池から電気を供給して生活しています。発電機はよく故障しますし、常に燃料も補給しなければならず、スイッチ一つで電気が使えることの便利さをしみじみと感じています。

全てに便利な日本から来て多少戸惑うこともありますが、食べ物が美味しく、治安も良いシエラレオネの生活は楽しいです。仕事面でも、熱心に働くスタッフに囲まれ、刺激を受けています。水もあり、自然豊かで鉱物資源も豊富なシエラレオネが貧困国であることが不思議ですが、勤勉なスタッフを見てみると、きっと近いうちに貧困国から抜け出せるに違いないと感じています。

澤池専門家（業務調整担当）

2. 現場活動の実況中継

2.1 「県議会は、誰かが欠けても、、、」

「誰かが抜けても機能する、それがチームだ。」

これは、朝田龍太郎の「チームの重要性」を問う言葉ですが（朝田って、、、現在、シエラレオネに駐在する日本人間で流行しているDVDドラマ「医龍」の主人公の医者です）、この言葉は県議会にも当てはまります（専門家チームもそうですが）。

限られた人員しかいない県議会は、各担当が役割にこだわって作業が進みません。入札準備の



休日を返上して道路の測定をしているカウンターパートとナショナル・スタッフ



エクセルに道路データを打ち込む調達官補佐（右）。本業の調達も熱心に作業しています。

調達官や設計・積算のエンジニアなど、代わりができてにくい役割もありますが、それでもうまく仕事分担することが必要です。

フィーダー道路プロジェクトにおけるポートロコ県議会の例を見てみましょう。

- ①「副首席行政官の場合、開発担当官の代わりに、村でニーズ調査とフィーダー道路の状況調査を行いました。「現場の状況を知ることが重要、チャンスがあったら是非一緒に調査に出たい」、OJTでは一緒に作業すること重要で、望むところです。

また、不在がちな首席行政官の代わりに、プロジェクトの話し合いに参加したり、決定を下したり、大活躍です。困ったときの副首席、私の良き相談相手です。



雨の中、車両から熱心に聞き取りをする人事官。今日は研修計画を忘れ、道路調査に没頭しています。

- ②人事官、内部監査官の場合、多忙なエンジニア、開発担当官の代わりに、道路局のエンジニアと道路の初期調査に出かけました。人事官は、積極的に住民に聞き取りし、道路状況を確認していました。内部監査官はその職業柄、作業を共有して良いのか微妙ですが、両者とも現場に出ることが少ない役割で、実際の村での作業を生き生きと行っていました。



村でニーズ調査をする副首席行政官。この村まで往復8時間かかりました。

- ③調達官補佐の場合、やはり、エンジニアの代わりに、道路初期調査に出かけました。乗ったバイクが途中で故障し2人乗りで現場に行ったり、そのおかげで帰宅が遅くなったり、それでも、にこやかに作業していました。現地調査の後、受けたエクセル研修で培ったスキルを基にデータベースを作成しました（エクセル研修の効果がここにも現れています）。

作業分担は工程を確認する上で、担当者間で話し合いをし、最終的には首席・副主席行政官によって決定されます。役割を与えられて文句を言う人はそんなに（？）いません。最後は納得し、皆で仕事を共有し、限られた人材で県開発を担う、それが県議会です。特にフィーダー道路のデータ作成や維持管理は、今まで県議会で実施してきておらず、上記の作業を一緒に行う上で、彼らがパイオニアとなっていきます。それが、よりよい体制作りにつながります。

宿谷専門家（道路計画/設計・施工監理・維持管理担当）

2.2 行政官を支えるサポートスタッフの活躍

2012年9月に行われたエクセル研修では、カンビア、ポートルコの両県議会でシニアスタッフと呼ばれる行政官だけではなく、彼らを支援するサポートスタッフと呼ばれている財務担当官補佐、調達官補佐、秘書なども研修を受講しました（サポートスタッフは、各県議会が必要に応じて雇用しています。）。

エクセル研修を受講したサポートスタッフの中でも、研修の成果を最も発揮しているのが、ポートルコ県で調達官補佐のウスマン氏です。彼は1年前、ポートルコ県議会ヘインターンとしてやってきました。その後、調達官補佐として採用され今に至ります。

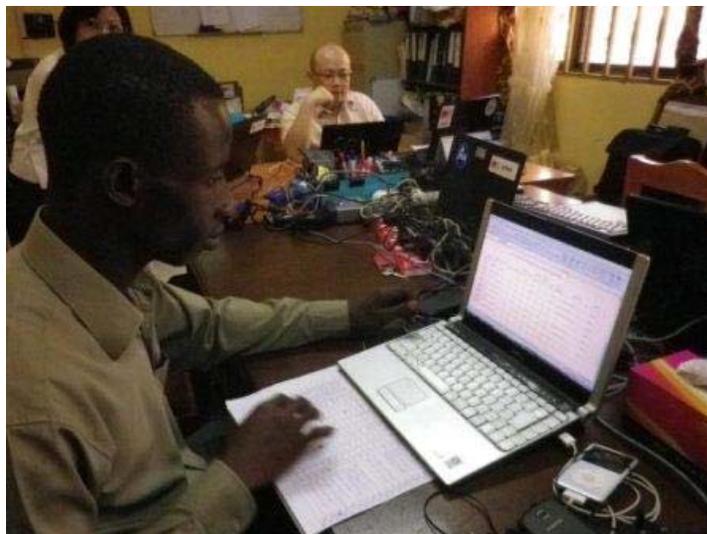
エクセル研修受講前のウスマン氏の主な仕事は、コピーや書類のデリバリーなどの雑務でした。そんな彼ですが、ポートルコ県議会からエクセル研修受講者の12人の1人に選ばれ、研修を受講する機会を得ることができました。

研修中は真剣に講義を聞き、講義で習ったことを繰り返し練習し、エクセルのスキルを磨きました。研修後もエクセルスキルを磨きながら日々の業務を行い、彼のスキルは日々上達しています。最近では、上司である調達官から、エクセルを使った書類作成を任されることも多くなり、毎日生き活きと仕事をしています。

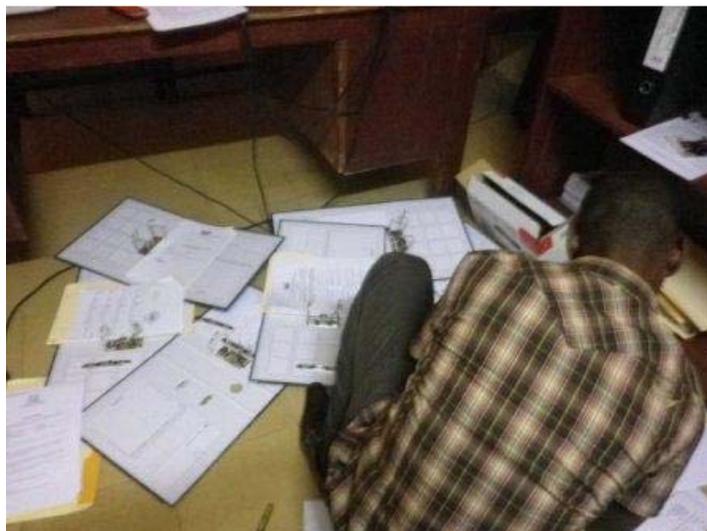
上司である調達官からも、「今まですべて自分でやっていた書類作成をウスマンに任せることができ、調達部の業務効率が改善され、仕事をスピーディーにこなすことができるようになった。」とウスマン氏の活躍に太鼓判を押しています。

忙しいシニアスタッフを支えるサポートスタッフの活躍は、県議会にとって貴重な戦力に違いありません。

反町専門家（研修計画・実施担当）



オフィスで書類作成するウスマン氏



作成した書類をファイルに閉じる様子

3. プロジェクト進捗報告

3.1 村落開発モデル構築：モデルワードプロジェクトー第二フェーズ指名業者選定始まるー

シエラレオネの調達法に則り、モデルワード事業では工事業者の選定に指名見積り競争方式をとります。

第一フェーズでは、落札業者の能力が低く工期に大幅な遅延が生じた中、何度もその業者のために現場監督に出向く必要が生じたり、指摘した瑕疵の補修に業者がなかなか応じず契約の解除手前まで警告レターを出すケースがありました。業者がしっかりしていれば不要であった事務手続きや会議など、多くの時間とコストを費やしたことを県議会職員達は痛感しました。

この背景には、政治家の強引な介入などにより、指名業者選定に透明性と説明責任を十分に担保できなかったり、県議会が業者の経験と知識を活用しきれないことがありました。

その教訓を活かして第二フェーズでは、指名業者選定の過程を、一層透明性と説明責任を担保しつつこれまでの県議会としての公共事業の経験を活用できるようにするため、プロジェクトから各県議会に登録業者のデータベース化を行い、その中から適切な指名業者を選定できるシステムを構築する支援を行いました。

各県議会の調達官を中心に、まず公平性に留意して登録全業者へ情報の提出を求めるところから始めました。結果、カンビア県議会は 17 社から、ポートルコ県議会は 19 社から情報の提出がありました。次に、事前に合意した評価基準に従って、業者の提出書類と、過去の実績を評価しました。

室温は 35 度近くなる中、ポートルコ県議会は 2 日に分けて計 7 時間、カンビアは一日ぶっ通しでやはり 7 時間、熱心に登録業者の評価を行いました。この結果はモデルワード事業の指名業者選定プロセスとして県議会の掲示板に張り出されます。今後は、透明性と説明責任を担保する形で、一般の事業でも適切な業者が選定されるよう各県議会が今回作られたデータベースを定期的に更新し、継続して活用してくれることでしょう。



ポートルコ県議会での業者評価の様子



カンビア県議会での業者評価の様子

池上専門家（村落開発担当）

3.2 県開発モデル構築：フィーダー道路改修プロジェクトー3年目は専門家がいなくてもー

シエラレオネでは、地域内を結ぶ道路はフィーダー道路と呼ばれ、地域の経済発展、人の交流のために重要です。ただし、状態は悪く、その機能の改良と維持は担当部局である道路局と県議会の重要課題で、ドナーからの援助も多いです。この事業では関係機関のかかる能力向上と開発のモデル構築・普及を目的としています。

気付いたらもう3年目のフィーダー道路プロジェクト。過去2年間の経験をもとに、県開発ハンドブック、実施要領をまとめており、3年目はいよいよカウンターパートが主体的に実施する段階に入りました。

11月～1月にかけては、工事のための調査、設計、入札図書作成の時期でした。この時期は、業務契約の関係上、日本人専門家は短期間しか滞在しません。各県とも県議会のエンジニア、道路局のエンジニア1人ずつ、計4人が主体的に作業をすることが必要です。



年末にカンビア県で、追加道路調査をする道路局エンジニア（左）。やる気と能力はかなり高いです。

11月初旬の週末に、首都にあるビーチ沿いのナイスなカフェにカウンターパート2人と集まり（カンビア県議会エンジニアは欠席）、作業内容と彼らと作成した工程を確認しました。リーダー的な道路局のエンジニアを中心に、他のエンジニアも引っ張ってもらう作戦です。「シユクヤ不在でもちゃんとやっておく」、当たり前ですが頼もしい言葉です。



カンビア県の工程会議。首席行政官（中央）を中心に調達・工程の話し合いをしました。年末で少しだけだるい感じです。

さて、1ヶ月半後。。。シエラレオネに乾期のまぶしい太陽とビーチが戻ったころ、エンジニアに状況を確認すると、予定の半分も終了していませんでした。

「大統領選挙や地方選挙があって忙しかった」、「12月は人が集まらず」、「給料が支払われず、モチベーションが、、、」。これでは、らちがあきません。

再度、エンジニア達と個別に話し合い、詳細予定を作成し、年末の押し迫った日に、首席行政官も含めて会議を行いました。説明は調達官、エンジニアが行いましたが、最後に私から宣言です。「この工程は最終案ですから、主体的に作業ができずに間に合わなければ、工事をしなくても良いです」。ドナーの状況も鑑みてプロジェクトを実施する、それも大事な能力です。これで、目の色が変わりました。

今度は専門家がいなくても、みるみるうちに作業が進みました。多少の遅れと最後のチェックは当然必要でしたが、概ね予定通りに進み、入札図書の作成まで終了しました。

今回の教訓としては、カウンターパートがスケジュール管理の重要性の認識と目標の設定をしっかりと行うことです。どちらかという時間にルーズな国民柄ですので、スケジュールも重要視していませんが、ちゃんと目標を設定すると、能力を発揮するようです。また、要所でチェックをしていくことで、彼ら自身も自信を持って進められるようです。そのような体制の強化も今後必要です。

技術協力の戦略として、これから専門家の投入は減っていきます。過去2年のプロジェクトをもとに、次は何ができて、課題は何でしょうか。カウンターパートの活躍を見つつ、その状況を見守り、また何が残せるか考えていきたいと思います。

宿谷専門家（道路計画/設計・施工監理・維持管理担当）

4.コラム：ごっつあんです！シエラレオネ 今回も2軒はしごしましょう！

4.1 第27話：アリラン 共同取材

「アリラン」といえば、韓国料理屋さん、と連想する方もいるかもしれません。そんな方は海外の生活が長いのか、旅慣れた人でしょうか。シエラレオネでも2年前に「アリラン」が開店しました。しかし、一度も行ったことがありませんでした。そしてとうとう、日本のコンサルタントの方のご協力を得て、みんなで食べに行くことになりました。今回は初の共同取材です。

鉄のゲートをノックして、中に入ると大きな子犬がお出迎え。いよいよベールに包まれたアリランの全貌が明らかに。

お店を切り盛りするのは、気立てのいいキ

ムさん。韓国生まれの中国育ち。だからコミュニケーションはハングルと中国語です。これが大変。

まず、ねぎとレタスの入った韓国スタイルサラダ、レタス、ごま油、にんにく、唐辛子、キムチたちがテーブルを埋めていきます。まるでオーケストラの始まりを待つような、、、。



お店の中。奥には座敷もあります（左）、肉を盛り上げる脇役の野菜たち（右）。



ねぎとレタスの韓国スタイルサラダは取材陣にも大好評。



薄切りのポークがあつあつの鉄板にのりました！（左）、もう食べごろかな？（右）

しばらくすると、炭火が入りました。そして肉の登場。ここシエラレオネではまぶしいほどの薄切り。豚肉はスペインから輸入しているそうです（K氏からの情報）。

さあ、キムさんが肉を鉄板にのせました。「ジュッ」という肉の焼ける音に期待はさらに高まります。肉が焼けてきたら、手際よくはさみで程よい大きさに肉を切ってくれます。

ここからキムさんのボディランゲージ交じりの説明がはじまりました。焼けた肉と韓国スタイルサラダ、唐辛子をレタスに包んでから、味噌、ごま油と塩を混ぜた特性たれをつけて、「はい、どうぞっ」とお客さんの口まで運んでくれます。これは最初だけのデモンストレーション。大勢で食べるとさらにおいしさ倍増。取材に協力いただいた皆さんありがとうございました。そしてごちそうさまでした。おいしかった～。

これは最初だけのデモンストレーション。大勢で食べるとさらにおいしさ倍増。取材に協力いただいた皆さんありがとうございました。そしてごちそうさまでした。おいしかった～。

ひらしゅらんと共同取材陣の独断と偏見の評価：★★★★★。この記事を書いていたら、また行きたくなりました。

4.2 第28話：手作りの窯と手作りのピザ

2軒目は、欧米の人たちの中で評判になっているピザ屋さん「ISA'S PIZZA」のご紹介です。地方へ行く際に使う通称「マウンテンロード」に入る手前にある大きな病院の向かいにお店の看板が見えました。注意してみないと通り過ぎそうです。

早速左折して敷地の中に入ってみると、お店らしい建物がありません。「まさか、あれっ」と目に入ったのは、難民キャンプを想像させるような、木の枠にブルーのビニールシートをかけた建物でした。



手作りのお店（左）と手作りの窯（右）

お店の外では犬と子猫が仲良くじゃれあっているのどかです。フランス人のフィリップさんとシエラレオネ人のイサさんが経営者。今の場所にお店を構える前は、街中の人通りの多いところでピザ屋を経営していたそうです。ところが、シエラレオネのビジネスパートナーにお金を持って逃げられてしまったそうです。

そこで、今の場所で再出発。手作りのお店にピザを焼く窯も手作りです。

ピザはお持ち帰りできるのですが、熱々を食べたいので、お店でいただくことにしました。メニューはシンプル。12種類のピザ。以上です。

ジュースはありますか？と聞いたらメニューにはないけど、かちんこちに凍ったフルーツジュースを冷蔵庫から出してきてくれました。

シンプルなテーブルにひいてくれた布の上に、熱々のマルガリータがどーんと登場。表面は程よいこげ具合と、とろーりとろけたチーズ、心地いいさくさく感のピザ生地。

スモールサイズでも十分大きい。しかも良心的な値段。ご馳走様でした。優しいフィリップさん夫妻と子犬、猫たちを応援したくなります。



焼きたてのマルガリータ。最高です。

ひらしゅらの独断と偏見の評価：★★★★★。手作り窯と手作りピザ。絶品です。

次号へ続く

発行元：シエラレオネ 地域開発能力向上（CDCD）プロジェクト 編集長 平林

事務所：フリータウン事務所：地方自治地域開発省内、カンビア県事務所：同県議会内、ポートルココ県事務所：同県議会内

プロジェクト協力期間：2009年11月～2014年10月（5年間）

対象地域：カンビア県（25ワード：人口約30万人）、ポートルココ県（7ワード：人口約9万人）

カウンターパート：地方自治地域開発省、カンビア県議会、ポートルココ県議会

派遣専門家：平林リーダー、澤池専門家（業務調整）、宿谷専門家（道路計画・設計/施工管理、維持管理）、反町専門家（研修計画・実施）、池上専門家（村落開発）、武田専門家（施工管理）：2013年1月実績

